

担当教員	科目名	定員の目安
岡部 耕典	福祉社会論ゼミ(ディスアビリティと現代) プログラム：福祉社会論	15名

授業内容

ディスアビリティを切り口として現代と社会福祉について考えるゼミです。

「障害(disability)は社会的に構築されている(個人の属性ではない)」という考え方を「障害の社会モデル」と呼びます。イギリスの障害当事者運動から生まれたこの新しい障害観は、格差・貧困・差別・社会的排除などの現代社会の諸問題の解決を、“できなくされている人(disabled person)”の自己責任へと還元させず社会の側に対応を求めるポリティクスとして注目されています。

本ゼミでは、「障害の社会モデル」を手がかりとし、加速する新自由主義と閉塞する福祉国家を交響する公共圏へと再構築するために必要な「自由の平等」と新たな福祉のかたち(ケア・運動・政策・制度的再分配)について、読み／調べ／考えていきます。

まなざすことなく聴き発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自らの〈生き方の窓〉をひらくことを期待しています。

シラバス

【3年生】

春期：文献講読とディスカッションを通じて基本概念や理論等を学びます。

秋期：文献研究やフィールドワーク等を通じて各人の問題意識を掘り下げます。

【4年生】

春期：文献講読及びゼミ論の予備研究を行います。

秋期：ゼミ論の研究／執筆／中間報告／完成させ、報告会の開催とゼミ論集を作成します。



教科書・参考文献

2013年度講読文献(予定を含む)

好井裕明「差別原論—“わたし”のなかの権力とつきあう」平凡社

好井裕明編「排除と差別の社会学」有斐閣

津田 英二「物語としての発達／文化を介した教育」生活書院

石川准・長瀬修編著「障害学への招待」明石書店

※2014年度については、確定メンバーの志望動機や関心領域などを踏まえて検討したいと思います。

評価方法

【3年生】平常点及び夏季・冬季の課題によって評価します。

【4年生】平常点及び春期末・秋期末報告を含むゼミ論への取り組みによって評価します。

関連 URL

- ・ http://www.f.waseda.jp/k_okabe/ 岡部耕典研究室
担当授業一覧、履修モデル、過去のゼミ論文（全文）、学内外の講演会等のお知らせ等を掲載。
- ・ <http://www.eft.gr.jp> イナッフ・フォア・トゥデイ？
担当教員の研究や活動にかかわるデータベース。「ポスト障害者自立支援法の障害者政策」「見護るという介護のかたち」「関係性構築の消費／自由を担保する所得」「パーソナルアシスタンス☆フォーラム」等。

授業実施曜日・時限（予定）

【金曜日・3限】3年生を中心とする文献講読やディスカッションを行います。

【金曜日・4限】4年生を中心とする文献講読や研究指導・ゼミ論指導を行います。

備考

- ・春／秋期末に3・4年合同の研究報告会及び懇親会を行います。♥新しくゼミに入る2年生はご招待！
- ・2012年度より合宿も開始しました。
- ・ゼミ論集を作成します。ゼミ論は全文が以下の研究室ホームページに掲載されます。→文末参考

今年のゼミ論題目（予定）一覧（8月1日ゼミ論中間報告会現在）

「ロマンティックラブイデオロギーからの開放に向けて」「人工妊娠中絶を減らすために」「累犯高齢者はなぜ増え続けているのか——再犯を防止するには」「音楽と福祉の可能性——ベネズエラの音楽教育エル・システムから考える」「声を上げられる社会——「強姦」・「慰安婦」問題を中心に」「なぜ、死を選んではいけないのか：「死」の所在をめぐる考察」「これからの家族と社会保障制度——少子高齢化社会を超えて」「「生きづらさ」解消のために——ベーシック・インカムの可能性を探る」「「絶望の国の幸福な若者たち」について考える——本当に豊かな人生のために何が必要か」「現代の学校における〈いじめ〉の問題と対応」「地域共生に向けて」「“あそび”が病児に与える効果——ホスピタルクラウンとホスピタルキャラバンの実例から考える」「真の「男女平等」を実現する社会政策とは」「よりよい特別支援学級のあり方——インクルーシブ教育・発達保障を通して考える」「児童虐待の発見と支援——連鎖の防止に向けて」「外国人労働者から見た日本の労働環境・日本社会での働きにくさ——その問題点と対策」

選考方法

ゼミ志望理由書と2年春学期までの成績を参考にして選考します。





ゼミ論报告会・中間报告会



軽井沢合宿



卒業記念パーティ



学位記授与式

参考 早稲田大学文化構想学部現代人間論系 岡部ゼミ・ゼミ論文（全文掲載）

http://www.f.waseda.jp/k_okabe/semi-theses/

2012 年度

政治参加における討論型世論調査の有効性と地方自治体による市民参加の取り組みの重要性

「ハンセン病」を語り継ぐ意義 —差別に抗する人権教育として—

発達障害と「少年犯罪」

地域に「雇用」を生む仕組みを考える —発展途上国における取り組みからの考察—

DI 児の望ましい福祉 —非配偶者人工授精で生まれた子どもたち—

現代における新たなコミュニティの形とは —「ゆるやかなつながり」を求めて—

不幸な中絶を減らすために 児童虐待と現代社会 —女性がひとりで子どもを産んで育てられる社会—

働きたい女性が働きやすい社会とは —デンマークと日本の比較から見る子育て支援・雇用・教育—

難病者福祉 —病者の生の実際と新たな支援のかたち—

子ども・若者の貧困 —ベーシック・インカムとスクールソーシャルワークの可能性—

2011 年度

「ALS 患者の尊厳死」をめぐる —よりよく生きられる社会の在り方を考える

障害者スポーツとノーマライゼーション

見過ごされたケアの責任と平等 —リベラルな依存の公共哲学

ロシアの社会福祉 —体制転換期の高齢者の生活

「若者」の貧困と社会的排除に関して

現代における大学生の就職問題と労働への意義 —望ましい就職、支援とは

児童虐待と現代社会

知的障がい者との共生社会の実現

セクシャル・マイノリティの暮らしやすい社会を求めて —同性婚、ドメスティック・パートナー制度を通じて

日本における望ましい地域福祉 —スウェーデンとの比較からみる家族介護・ホームヘルプ

「無縁」にならず生きていけるような社会とは

生活保護ケースワーカーのあるべき姿について

知的障害当事者の生活の支援と地域社会 —えびすばれっとホームとたこの木クラブの生活を比較して

望ましい災害ボランティアの在り方 —阪神・淡路大震災と東日本大震災を通して

望ましい介護のあり方とは —認知症高齢者の在宅介護を通して

2010 年度

現代の家族とこれからの家族福祉

セクシュアル・ハラスメントと行為遂行性((パフォーマンス))

—キャサリン・マッキノンとジュディス・バトラーの議論を通じて

医療観察法の問題点と犯罪を犯した精神障害者の処遇の在り方

障害者の脱施設化および地域自立生活の意義

義務教育における特別支援教育とインクルーシブ教育の意義 —将来がひろがる教育とはなにか

集団生活を送る場としての学校のあり方 —現代のいじめ問題から見る子どもたちの変化

鉄道における交通弱者支援の現状と課題 —高齢者や障害者の外出促進に向けた一考察

日本の社会保障のあるべき姿についての一考察 —弱者にとってよりよい社会支援の在り方を求めて